

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年6月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103946
法人名	株式会社ショコラ
事業所名	グループホームショコラうすき
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿7丁目14番3号 (電話) 099-275-7075
自己評価作成日	令和5年5月18日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、宇宿の閑静な住宅地に立地しており、直ぐ近くには医療機関(しょくらクリニック)やスパ等があり、ご利用者様にとって恵まれた環境の中にあります。ショコラグループとしては、グループホームショコラながかり、小規模多機能ホーム、かごしまショコラ保育園、しょくらクリニックの事業も行ってまいります。ご利用者様の日常生活における活力をもたらし、生き甲斐や心の充実に繋がる環境作りにも取り組んでおりますが、新型コロナウイルス感染予防の為、交流の自粛やご家族様との面会の制限をしています。また、スタッフにおきましては、「ご利用者様の為に」との思いと「今日が最期の日」という気持ちで、より良いケアを行うように勉強会を行いケアの質の向上を図りケアを行い、一日でも長く楽しい時間を過ごして頂ける様にスタッフ一同、日々努力をしております。ご利用者様とご家族様との絆や関係作りを大切に、より良い時間の提供も行ってまいります。又、施設内での日々の生活を解かって頂く為に、日々の様子や活動参加中の様子を写真撮影し、ご家族様に閲覧して頂いたり、ショコラ便り(事業所新聞)にお便りも添えて毎月配布致しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は法人の理念とホームの各ユニット毎の理念とがあり、利用者ができること・話してくれたこと・笑顔になってくれたことを共に喜び、感謝と素直な気持ちを忘れずに日々のケアに生かしていけるように取り組んでいる。また、理念と共に行動手帳を毎日の朝礼で唱和し、ミーティングやカンファレンス等において、職員間で意見交換して理念の共有と意識付けを図っている。

ホームは利便性の良い住宅地に平成16年に建てられ、母体医療機関も近く、主治医の往診や看護師による健康管理等が定期的に行われている。看取りの指針や事前意思確認書を基に看取りの事例もあり、家族の思いの変化や利用者の終末期の段階に応じて方向性を共有し、適切な支援ができるように取り組んでいる。夜間は24時間連携体制となっているためいつでも主治医の直接対応が可能であり、利用者・家族・職員の安心に繋がっている。

利用者にとって馴染みの関係が途切れないように、面会は予約制で毎週日曜日、20分以内で実施しているが、今後は可能な曜日を増やしていく予定である。家族との外出は、墓参り等を兼ねて自宅に2時間まで帰ることが可能であり、少人数でのドライブや近隣の散歩など、少しでも体を動かすことでリハビリの効果が得られるような支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で職場全体の理念と各ユニットで作成した理念と「行動手帳」を毎日1ページずつ唱和し互いに意識し日頃のケアに繋げて実践しています。理念は入口と共有スペースに提示しています。	法人理念とユニット毎に作成した理念を玄関とホールに掲示し、行動手帳と共に毎日の朝礼で唱和して意識付けを図っている。管理者は職員に対する年2回の自己評価と日頃のケアの様子から理念に沿ったケアが実践されているか確認し、利用者と共に感できるケアを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中間地区の町内会へ加入しています。以前は敬老会などの町内会の行事への職員と可能な限りでのご利用様も一緒に参加を自粛していましたが、コロナ禍でしたが、コロナも落ち着いてきているので、今後様子を見ながら再び参加出来ればと思っています。	町内会に加入し、回覧板を通してお便りを発信したり、地域やデイサービスの方々から花や野菜の差し入れをいただいている。子供達との交流やボランティアの受入れ、地域の行事への参加等は自粛している日々が続いているが、近隣の散歩時に住民と挨拶を交わすなど、地域との触れ合いや交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の町内会の話し合い（総会、協議会）への参加日常的にも地域の住民との交流をコロナ禍においても、限られた中で情報の提供や情報収集をしやすい状況作りに努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に対し年2回のアンケート調査を回答しやすいように無記名で実施しています。頂いたご意見は家族会やアンケート結果を各ご家庭へ郵送にてお知らせもさせて頂き運営推進会議にて共有し改善しています。	家族を含めた関係者には予め電話等により意見や要望等を伺い、職員・法人内の有識者が中心となり2か月毎に議事録を作成している。ホームの運営・活動報告、ヒヤリハット、デイサービスの状況等について話し合い、年2回の家族アンケートの結果も参考にしてサービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>会合などの案内があった際には積極的に参加しています。又ホームページなどを閲覧しサービス向上に努めています。</p>	<p>地域包括支援センターから紹介された利用者についての状況確認、社協の介護相談員の来訪等があり、市担当者とは電話や窓口での各種手続き・介護に関する解釈・補助金申請等、連携を密に図っている。市やグループホーム協議会からのリモート研修案内もあり、できるだけ参加できるように取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>定期的に身体拘束廃止の研修を行っています。研修を通じて身体拘束に関する理解を深め、実践しています。施設の施錠については日中はしていませんが防犯上20時以降は玄関施錠行っています。</p>	<p>「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。年間研修として虐待や身体拘束に関する勉強会を行い、日中は玄関の施錠はせず、言葉による拘束についてはミーティングや接遇研修において具体的に話し合い、気づいたら注意を促しており、馴れ合いにならないように丁寧語で話すように努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての事を基礎知識から日頃からのケアが虐待につながっていないかを、定期的な研修を行い、職員全員で取り組んでいます。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>定期的な社内研修において地域福祉擁護事業や成年後見人制度について学び職員全体で取り組んでいます。ご利用者様が必要な方は、それらを活用できるように支援を行っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>丁寧に一つ一つ十分な説明を行い、不安や疑問点を伺い納得された上で契約を進める様に留意しています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会に来られた際に日々の生活の様子などお話をしご家族様からもご意見を頂いたり、年2回のご家族様へのアンケートを実施し自然な形で思いを引き出せるように努めています。</p>	<p>利用者の思いは日頃の会話や表情・仕草等から、家族の思いは面会・アンケート等の機会を通じて把握に努めている。毎月のお便りを家族に郵送する際には、裏面に利用者個人の写真と担当職員によるコメントを記載しており、家族から直接感想や意見等が出せるように取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年2回の自己評価と職員が会社を評価する機会を設け、3者面談等で意見や要望を聞き、必要に応じて個別相談にも応じている。</p>	<p>職員間のコミュニケーションはうまく図られており、申し送り・ミーティング・グループライン・年2回の面談・随時の相談等を通して、意見や要望を把握し、協議しながら改善に向けて取り組んでいる。有給や希望休の取得・勤務交代・研修会への参加等、可能な限り対応して、職員が意欲的に働きやすい職場環境となるように配慮している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員とのコミュニケーションを図り、給与は資格だけではなく職員本人の努力や実績、勤務状況や自己評価を考慮してベースアップを決める体制にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>大人数での勉強会の実施は難しいので各ユニットのミーティング後に勉強会を行っています。回覧の中に社外研修の案内を行い、希望される方は社外研修へ受ける機会を設けています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員との研修会や懇親会の機会を設け交流を図っていましたがコロナ禍の為、個別や少人数での相談しやすい環境作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居される前に必ず見学、スタッフがご自宅や入院先へ訪問を行う様にしている。その上でご本人様が不安や要望をよく聞き受け止める様に努めている。又、他の介護保険サービスの説明をするように心掛けている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>見学の際にもお話をし、契約の際にも一つ一つご説明させて頂き、納得してもらったうえで利用して頂けるように心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>知り得た情報をミーティングを行い、スタッフ間の情報を共有し、ご本人様にとって今一番必要な支援の方法を考え、その時にあったサービスの提供、対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人様の好きな事や趣味や得意な事を引き出し長年の技や知恵を教わる事で、ご本人様の人格を尊重しながら過ごすように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>新型コロナも少しずつ落ち着いてきていますが、感染予防の為面会の制限を設けています。面会の禁止の際には、お電話や月に一度の「ショコラだより」に日頃のご様子の写真を添付とお手紙を書いてお知らせしご本人様とご家族様が良い関係を保てるように支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>新型コロナウイルス感染症予防の為、面会や行事の制限がある中で関係を継続するためにも定期的なお電話での状況をお伝えしたりショコラだよりを通じて関係の継続に努めている。</p>	<p>コロナも第5類の取り扱いとなり、現在面会は日曜日のみ予約制でパーティーション越しに20分以内・2名までという条件が付されているが、今後は可能な曜日を増やす予定である。家族との外出は墓参り等を兼ねて自宅に2時間まで帰ることが可能となっている。電話や手紙の取り次ぎ・ドライブ・近隣の散歩・2か月毎の訪問美容など、これまで本人を支えてきた馴染みの関係が途切れないように支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の相性や関係性等に配慮して仲の良い方との席を近くにしたり配慮し心地よい時間を過ごして頂けるよう努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了時の情報提供や、その後も必要な方には継続的な支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その方らしい生き方」を中心に考え、介護者の自己満足にならないようなケアを心掛けている。ケア手順書やミーティング・申し送り簿にて情報の共有を行い、ケアの統一に努めている。気づきがあった際にも情報を共有しています。	自分の思いをうまく伝えられない場合には、話せていたころの記憶や家族等からの情報を基に推測している。入居時や病院からの情報等からフェイスシートを作成してミーティング等で情報共有し、誰が見ても理解できる「ケア手順書」を介護場面毎に作成して、家族の思いも支えながら本人本位のケアとなるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ご家族様よりフェイスシートを用いたり、前施設から情報を収集し、状況把握に努め、入所の際は、昔のアルバムや使っていた馴染みの物を持参して頂き、ご利用者様との会話の中でこれまでの生活環境や生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の朝礼の申し送りや定期的なミーティング、ケア手順書通じて、入居者様の状態（経過）を把握し共有しケアの統一に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア手順書を生かし現状を把握しつつ、本人・家族の意向を重視し、主治医や訪問看護にご相談したり、担当者会議の中でも職員も意見を出し合いながら、ご利用者様本意の介護計画の作成を心掛けている。	本人や家族の意見を取り入れながら、カンファレンス・ミーティング・年2回のモニタリング・個別レク実施記録表等を参考に、主治医や看護師の意見も聴取して介護計画を作成している。計画は本人・家族の気持ちや状態に合わせて穏やかに過ごせるような視点から本人主義となるように協議し、本人の状態変化だけでなく、家族の要望も取り入れて見直しや修正を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様一人ひとりの日々の様子やケア、サービス提供の内容、健康状態なども個別に記録し、職員間で情報の共有することにより、状態の変化を継続的に見ることができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	建物内に通い、近隣には小規模多機能施設やクリニックも備えており、在宅復帰後も慣れた空間を継続的に利用できる様になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者・地域消防施設隊員を交えての消防訓練を年2回行っている。散歩や外気浴の際には地域の方々から声をかけて下さったりしています。地域に開けた施設を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を第一に、かかりつけ医の選択を行っている。受診の際は家族同行を基本としているが、必要時には家族の了承のもと職員も同行している。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を家族の協力をもらって支援しているが、殆どの利用者は母体医療機関をかかりつけ医としている。母体医療機関から医師の往診が2週間毎、看護師による健康管理や必要な医療処置が毎週1回行われ、眼科等の専門診療科の受診は主に家族が対応している。夜間は24時間連携体制が構築されており、母体医療機関の医師に対応してもらえるため、利用者・家族・職員の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護にて看護職員に日常の関わりの中で得た情報や気づきを伝え相談し適切な受診や看護を受けられる環境作りに努め医療連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関との連携を図り緊急時すぐに受け入れ体制を整えてもらえるようにしている。入院の際は、病院関係者へ情報提供を行い、退院の際は、カンファレンスに参加しています。入院時は関係者へ連絡し状態や退院の日程を段取りを行い、早期退院を図り、退院後も、かかりつけ医と連携し早期に現状回復できるように情報収集に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される際にも説明し、終末期の際にも再度ご家族へ説明し同意を得るようにし、重度化した場合などの対応については、本人や家族からの希望を第一に考え、事業所内でも「緊急時の対応及び看取りに関する方針」において方針を定めています。	「重度化した場合における(看取り)指針」を整備し、「急変時や看取りについての事前確認書」「終末期ケアについての同意書」を入居時・家族の思いの変化や利用者の終末期の段階に応じて説明し、同意を得ている。現在看取りの事例があり、スキルアップのための研修等も実施しているが、今後は看取り後の振り返りを行い、次回に向けて取り組んでいきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル作成し、日頃から全職員が共有できるように掲示している。応急手当や初期対応の訓練を施設内で研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災だけでなく、地震や水害など色々な場面も想定し年2回行われる消防訓練を行っています。消防訓練後には、消防の指導を仰ぎ、反省点を次の訓練に活かしている。コロナ禍でなければ地域の方々とは日頃からお付き合いを大事にして緊急時には協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>「非常災害時マニュアル」に基づいた計画を作成し、夜間想定を含む火災・地震・水害等に対する災害訓練を年2回(消防署と合同1回、自主訓練1回)実施している。コロナ禍以降、地域の協力は控えてもらっているが、日頃の関係性は良好に保たれているため、今後は徐々に再開できることを期待している。自動通報装置が設置され、避難経路や消火器の取り扱い等についても確認している。備蓄は1階ユニットに水・レトルト食品を約3日分準備し、ラジオ・懐中電灯・カセットコンロ・簡易トイレ等も用意して災害対策に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様の尊厳やプライバシー確保に配慮しケアを心掛けている。言葉かけの際には、声の大きさに配慮し、丁寧語で言葉かけを行っています。	「プライバシー保護マニュアル」「個人情報保護規定」を整備し、年1回勉強会を開催している。ボランティアや施設見学者に対しては、守秘義務について事前面談時に説明している。排泄や入浴時の羞恥心、言葉遣いにおける丁寧語・声のトーン等にも配慮したケアの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を第一とするために、普段から対話をしたり思いをくみ取り希望に合わせた環境作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・個別の運動・公文式等1日の流れはありますが、ご利用者様一人一人のペースで無理はせず参加出来るようにし、職員本意のケアにならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ホームへの出張カットを利用したりし、季節ごとに洋服などは衣替えを行い、必要な洋服等はご家族様へお願いし購入して下さる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の誕生日や季節の行事には特別メニューを設けている。食事について興味を持ってもらえるよう、盛り付けや配膳、片づけを一緒に行っている。調理レク(冬場は月に1回、鍋料理)を行っている。年に数回、海鮮丼の日を設けて近くのお店から購入し食事を楽しまれています。	法人の栄養士が作成した献立表に基づいて、デイサービスと兼務の調理専従の職員が宅配で届けられた食材を用いて調理している。利用者の好みや栄養バランス、季節感、刻み・ミキサー・とろみ等の形態に配慮し、利用者はテーブル拭きや下膳等、一緒にできることへの支援に努めている。職員は利用者から離れた同一空間で同じ食事を摂っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士にてカロリー計算されており、摂取量の記録と2週に1回の体重測定を実施している。また、利用者の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫や、介護用食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	新しく入所された方は、必ず初回の歯科往診を行い、口腔内の状態の把握に努め必要な場合は治療や義歯の調整を行っている。必要な方にはご家族様に状況を説明し了解を頂き歯科往診治療を行っています。毎食後、口腔ケアを実施している。毎食後1日1回は職員が口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄剤による義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	羞恥心に配慮しつつ一人一人の排泄パターンを把握し、本人に気持ち良く排泄してもらえるように支援している。トイレでの排泄が難しいご利用者様も朝食後にポータブルトイレに案内し、排泄が行えている。	利用者毎の排泄リズムを把握し、「排泄ケア手順書」に沿って、さりげない誘導に努めている。おむつ・リハビリパンツ・夜間帯のポータブルトイレ使用など、利用者の希望や状態に応じて排泄の自立が図れるように取り組んでいる。便秘の予防に朝のヨーグルト・歩行・体操・階段昇降・腹部マッサージ等に配慮して支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に排便の有無の状況を把握し情報を共有し便秘の日数や便の状態や量を記録している。水分摂取や体操や散歩・廊下歩行、毎日の朝食にヨーグルトの摂取やアルカリイオン水の飲用や植物繊維を積極的に取り入れるなどし便秘予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本の入浴日火・木・土で決まっているが、その他の日に他の部署で協力して頂き入浴を行っています。必要な方には手浴・足浴・清拭もその都度、実施している。	週3回、午前中の入浴を基本としており、気の合う利用者同士で入浴することもある。排泄の失敗等の場合には、随時衛生面に配慮して柔軟に対応している。入浴剤の使用により気分転換を図り、シャンプー等は共用であるが、好みのものを使用することも可能である。利用者は全員湯船に浸かることができ、入浴をためらう場合には無理強いせず、タイミングを図りながら気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や身体状況を把握し、お昼寝はご本人様への確認の上、休息の時間を支援している。夜間は一人一人の就寝される時間に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の際は内服ミスのないように職員2人で声に出してダブルチェックを行い服薬の支援を行っている。薬の内容が変わった時にはその都度申し送りし共有し、ケア手順書にも記載している。月に1回のミーティングの際にも薬の内容が変わった事の共有と症状の変化の確認に努めている。また、薬の説明書を利用者ごとの個人ファイルに添付している。利用者の変化に職員全員で気付けるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字に慣れ親しんだ方もそうでない方も一緒になり毎月1回習字を行う事で楽しんでおられる。食事の盛り付けや洗濯物たたみなどそれぞれの役割をもって行い、日常生活を楽しめるようにしている。散歩を行い、外気に触れ、気分転換にも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などには、気分転換や体力作りを兼ねて散歩へ行ったり、桜の季節にはドライブ行ったり、近くの公園へ散歩がてら花見に行ったりと出来る範囲での外出支援を行っている。	利用者が行きたい場所へ外出できるように配慮しており、花見の時期には桜は歩いて出かけ、コスモスやアジサイはドライブで出かけている。少人数でのドライブ、車いすでの近隣の散歩など、少しでも体を動かすことで生活リハビリへと繋げ、利用者の状況に応じた外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人・家族と話し合い、それぞれのご入居者様の力量、希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族様やご友人とのお電話をお取次ぎしお話をしています。贈り物があったときに本人からお電話をするようにしたり、頂いた物と一緒に写真を撮りお便りに添えてやりとりの支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションを通じて季節感を感じられる物ご利用様と制作、季節の飾り付けや貼り絵、お花を飾ったりし、ご利用様に季節感を感じてもらえ居心地良く過ごせるようにしている。調理や洗い物、掃除をする時などは、出来るだけご利用様に不快感を与えないように心掛け、スタッフの言動にも注意を払い、声掛けの際は、どなたに声をお掛けしたかが分かるように声かけを行い、混乱のないよう落ち着いて過ごして頂くように、心がけている。	明るいホールには利用者と職員が一緒に制作した季節の飾り付けや作品・生花・時計・カレンダー等があり、生活感や季節感を取り入れ、ゆったりとくつろげる環境づくりに努めている。空気清浄機や加湿器も設置され、利用者もできる人は一緒に掃除して清潔感のある空間となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間にソファやマッサージ機を置き、好きな所で好きなように過ごせるようにしている。皆様、楽しい時間を過ごして頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際にご自宅で使っていた馴染みの家具や物、昔のアルバムなどを持ち込んでもらったり、希望に合わせてベッドの配置も行い本人が居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	<p>居室は全室洋室のフローリングで腰高窓仕様となっており、電動ベッド・エアコン・洗面台・クローゼットが備えられている。利用者は使い慣れたテレビ・冷蔵庫・扇風機・食器等を自由に持ち込み、写真・アルバム・ぬいぐるみ等を工夫して配置し、憩える暮らしとなるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや浴室に手すりを設置したり、トイレの場所が分かり易く大きく表示している。目の不自由な方の為にはトイレに鈴を設置しトイレを終えた際には鳴らして頂くようにしています。動線には、物を置かないようにし、安全に歩行出来るようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない